

第 140 回 帝国主義時代のヨーロッパ②

1 大英帝国の内政問題

- ・19 世紀のイギリスでは、選挙権拡大や労働組合公認により労働運動が盛んとなった。
→保守党と自由党の二大政党に対し、労働者による政党が求められるようになった。

・1884 年、() とバーナード=ショーを中心に () が結成された。

・1893 年、ケア=ハーディを中心に独立労働党が結成された。

→1900 年、これらが合同して () が結成された。

→1906 年、() に改称し、合法的な社会主義政権の実現を目指した。



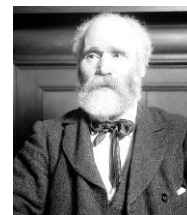
ウェブ夫妻

ウェブ夫妻の夫シドニー=ウェブは、後に労働党内閣の閣僚を務めた。革命ではない社会の改良を目指していた。



バーナード=ショー

社会主義者として世界史の教科書に出てくるが、劇作家としても知られ、「マイ=フェア=レディ」の原作者としても有名である。



ケア=ハーディ

元々は石炭を掘る労働者であった。労働党の初代党首も務めている。

◆アスキス (自由党) (在任 1908~1916 年)

・1911 年、国民保険法により、疾病保険と失業保険が整備された。

・1911 年、() により、上院に対する下院の優位を確立させた。

・1914 年、() を成立させアイルランドの自治を認めた。

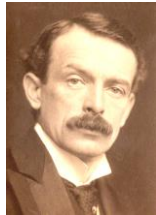
→しかしイギリス国教徒が多い () は、これに反対してシン=フェイン党などの急進派と対立した。

→第一次世界大戦中の 1916 年、急進派は、アイルランドの完全独立を目指して () という武装蜂起を起こしたが、鎮圧された。



アスキス首相

重要法案を次々に成立させた。第一次世界大戦の開始時にも首相だったが、戦況の悪化によって、辞任を余儀なくされた。



ロイド=ジョージ蔵相

蔵相は財務大臣にあたる。議会法の成立は、上流階級への増税に上院が抵抗したために行われた。アスキス辞任後は首相を務め、パリ講和会議に出席した。159 回で再登場。



イースター蜂起

イースター(復活祭)の日を起こしたので、この名がついた。建物はダブリンの中央郵便局で、ここを占拠したが、鎮圧された。

2 帝国主義とフランス

・普仏戦争に敗れたフランスでは、1870 年に () が成立していた。

・豊かな中産階級に支えられた銀行の資本力を背景に、帝国主義政策を進めた。

・フランスも、1880 年代から、アフリカ・インドシナ・南太平洋に進出し、多くの植民地を獲得した。

・1894 年に露仏同盟が成立すると、ロシアなど外国への投資も盛んに行われた。

<フランスの国内問題>

- 1887年、() というクーデター未遂事件が起こった。
- 1894年、() というユダヤ系軍人へのスパイ冤罪事件が起こった。
→自然主義作家の() は、ドレフュスを擁護して軍部を非難した。
→根強い反ユダヤ主義のなか、ユダヤ人のヘルツルを中心にユダヤ人の国家建設を目指す() 運動が盛んとなった。



ブーランジェ將軍

ドイツに対するフランス国民の恨みを利用して、人気者になった。権力者になる可能性は充分あったが、最後にびびって水の泡になった。



追放されるドレフュス大尉

左の絵は、冠位をはく奪され、剣を折られる場面。後に真犯人が見つかったが、それでもドレフュス無罪が認められず、議論を巻き起こした。



ゾラ

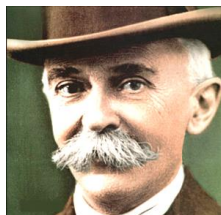
『居酒屋』などの作品で知られるゾラは、「私は弾劾する！」と述べて、ドレフュスを擁護した。左の絵は、マネが描いた「エミール=ゾラの肖像」。

- このころのフランスは、1901年に結成された急進社会党によって政教分離がすすめられ、1904年には() が制定された。
- また労働運動では、() という労働組合による革命を目指す運動がさかんとなった。
→1905年、社会主義政党の() が成立すると、収まっていった。



エッフェル塔

エッフェル塔は、第4回万博に間に合わせるため、突貫工事で建設された。19世紀末以降のヨーロッパは、フランスを中心に「ベル=エポック(古き良き時代)」と文化的に呼ばれている。



クーベルタン

第1回の国際オリンピック大会は、1896年にクーベルタンによってアテネで開催された。「オリンピックは参加することに意義がある」の言葉が有名。



サンディカリズムの運動

演説するサンディカリズムの運動家。社会主義のなかでも、議会主義を否定し、直接行動による革命を目指す、かなり闘争的な運動である。

3 帝国主義とドイツ

- ドイツは1871年に統一され、ドイツ帝国が成立していた。
- 急速に工業化がすすみ、保護貿易政策によって独占資本が形成されていった。

- ◆ () (在位 1888~1918年)
- 1890年、() を廃止した(宰相ビスマルクは同年に辞職)。
→ドイツ社会主義労働者党が改称し、() が結成された。
→1896年、ドイツの() は、革命を起こすのではなく議会の多数派となって社会主義政権を実現する() を主張した。
- 20世紀に入ると植民地の再分配(再分割)を求めて、「() 」をかかげて海外進出を本格化し、() を行った。



宰相ビスマルク

VS.



ドイツ皇帝ヴィルヘルム2世

ヴィルヘルム1世の孫。ひげに特徴がある。祖父の時代からの老宰相ビスマルクと対立し、これがドイツ帝国の方向を大きく変えた。その結末は第154回で。



ベルンシュタイン

ドイツの社会主義運動は、1860年代にラサールやベーベルにより本格化していた。ベルンシュタインは、革命をしないで政権をとるという、ある意味「革命的な」社会主義を考えだした。